

のまだ固まっていない砂がつもってできていることを理解する。

- ④ 黒っぽいしま模様の地層を追いかけて見よう。地層は水平方向に広がってつもっていることを理解する。
- ⑤ がけに深いみぞが観察されず。このみぞは雨水のはたらきで、やわらかい砂層がけずり取られて次第に深いみぞとなったもので、流水のはたらきを話し合う。
- (3) 地層に近づいて、その特徴を観察させる。
淡黄色をした地層を触ってみよう。川原の砂のような感じを受けます。この地層はまだ固結していない砂層です。



また、数枚の5 cm～10 cm幅の帯状の黒っぽい横しま模様が観察されますが、この部分は特に鉄分が多くつもった部分です。

この地層は中新世の終わりに、会津一帯は陸化し始めましたが、この群岡附近は湖として残り、この湖につもってできたもので、鮮新世の地層です。

この観察地から国道49号にでると広い駐車場がありますが、その向かい側のがけの緑色凝灰岩（中新世の地層）に二枚貝の化石が見られます。